

定例教育委員会会議録

令和5年12月25日

境港市定例教育委員会（令和5年12月25日委員会会議録）

招集年月日 令和5年12月25日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 山本 淳一

委 員（職務代理人） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 角 純 也

生涯学習課長 松 本 昭 児

管理係長 今 井 洋 介

傍聴者数 なし

会議書記 管理係長 今 井 洋 介

提出議案 なし

協議事項 12月定例市議会教育委員会関係質問答弁について

報告事項 12月の行事報告、1月の行事予定
境港市民図書館の利用状況について

【1. 開会】

山本教育長

皆様お揃いのようなのでただいまから12月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

山本教育長

本日は議決事項がありませんので、協議事項からとなります。協議事項は12月定例市議会教育委員会関係質問答弁についてです。事前に資料をお渡ししておりますが、ご意見ご質問等ありますでしょうか。

十河委員

公民館のコミュニティセンター化についての答弁があったと思うのですが、ちょっと認識を一回明確にしておきたいのですが、私の中では公民館は教育委員会のくくりのものであって、コミュニティセンターは首長で、どちらかという公民館が主管教育施設というようなイメージがあったりもするのですが、そういうのがどう線引きみたいなものがされているのか教えていただきたいと思います。お願いします。

松本課長

基本的な制度としては、今、お話にもあったのですが、公民館は社会教育法に規定されている施設ですので、法律上明確に、社会教育や生涯学習を行うための施設となっています。コミュニティセンターというのは、それとは違うものですので、おっしゃられたように、教育委員会の所管の施設ではなく、首長部局の方が所管している施設です。また、役割の違いといいますと、もう少し細かい話になりますが、仮に、公民館を社会教育や生涯教育をするものだという風に、狭くとらえた場合、そのコミュニティセンターとの違いは、コミュニティセンターはそういった社会教育や生涯学習だけでなく、いわゆるまちづくりとかにぎわいづくり、地域課題の解決ですとか、社会教育、生涯学習というものにとらわれない、より幅広なところで様々な取り組みを行っているもの、と単純に分けられます。あとは、これも少し法令の部分に関わるのですが、公民館は法令上の規定で、できることが制限されています。要するに営利を目的とした部屋の貸し出しとか利用みたいなものが制限されていたりするのですが、コミュニティセンターであればそういった制限

は特にかからないです。いわゆる稼ぐことを目的にした講座とか、そういうものもコミュニティセンターであればできないことはないのですが、より幅広い取り組みができるというような、一般的なそういう分け方はされています。ただ、実際は公民館の方も、そこをもう少し柔軟にという通達も出ていたりして、ガチガチに全く何もできないというわけではなかったりするのと、境港市の場合、社会教育、生涯学習だけではなく、コミュニティセンター的な役割も公民館として果たしていきなさいよということを明確に位置付けていますので、実際に何がどこまで違うのかという話には、公民館によってはなっていると。境港市の場合は特にそうだなという風には思っていますし、答弁でもそのようにお答えさせていただいています。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

渡邊委員

今後導入を検討するデジタル化とシステム化というところで、デジタルトランスフォーメーションの予定等が資料に色々と書いてありますよね。デジタル化になって、おそらく先生方の仕事や業務はどんどん楽になっている部分、全部が全部そうではないと思いますけれども、一番には子どもたち、児童生徒が学習や学力が向上していくのが一番大きな狙いということもとても必要だと思います。教育長の答弁の中に、デジタル教科書のことや、オンラインで世界とつながる（外国語）学習や、それからオンライン学習（ハイブリット型）支援、これはどういう中身だろうなと思ひまして、エキスパートの先生が授業をして、サポート的な役割を担任の先生がするのかなみたいな。何かそういった、おそらく教育長の頭の中で思い描いておられるような、システムの予定みたいなものが、現段階でこういうことを考えているみたいなことがもしあれば教えていただけたらなと思ひました。

山本教育長

デジタルトランスフォーメーションを上手に使うことによって、役割の分担ができる。前で授業をする人、困っている子どもにサポートする人、さらに進んだ子どもにさらに難しい問題を与える人、それにも全くついていけない子どもを担当する人、というようなことが、大きいくくりの集団を作ることで可能になる方法というのは、そのデジタルトランスフォーメーション

を上手に使った方法ではないかと私は思っていて、全部そうするというわけではないのですが。国も、たくさんでやる、学ぶという活動を否定されているわけではないんです。けどみんな世の中は小さいくくりに移行していく方向に動いていて、そこに警鐘を鳴らせるのではと。例えば本当にエキスパートという制度を鳥取県が作っているのだったら、エキスパートで、算数の掛け算九九のとても上手な教え方ができる先生が、別にうちの学校にいらなくても、エキスパート授業を100人が見ているオンデマンドで流して、わからないところをサポートして、かたや学校に来られない子はハイブリットで学習をしながら。家でも学習ができて、つまりいた箇所はそれぞれのサポートをする一緒のグループであった各学級の担任だった人たちが、役割分担で困り感のある子どもたちのそれぞれのニーズに合わせて寄り添っていく方法が、これざっくり今言っていますよ。可能になる可能性がある。今までとにかく先生が教えるのに経験や年数がかかるし、だったら若い人でも上手くいくように、小さい人数を作り上げていくことが主たる目的だったところをもう一度、本当にそうなの？というところもあってもよいのではないかと思っているということです、究極は。でも、オンデマンドやハイブリットというのは、集まることに要する時間を解消できたりしますし、やはり色々開かれているという意味合いで、授業が密室化しない、これは大事な事かなと思っているというところもあって。まだ、だから具体的にそういうものを認めますと、例えばオンラインの授業は単位として認めますというところにまだ文部科学省はうんと言っていないので、だから色々な実験が可能になるようなところでアプローチしていくことが大切だろうなど。実績を作って、ああそれいけるねというものをやらないといけないとは思っています。ちょっと大きくくりな言い方していますけれど。可能性、学ぶという可能性を多様にしていくという方向は、ICTを利用することで、もっともっと開発できますし。今までは学校に行っていない、授業に出ていないのだからだめと言っていた自分があります。その反対をどうしたら組み込めるかなと思っているということでもあります。

渡邊委員

デジタル化は、なかなか大変だろうと思うのですよね。こうやって進めていくのにも。テストの採点がデジタル化すると、

先生のメリットもありますが、おそらく子どもにとっても、自分の得意なところ不得意なところを、自分で主体的に学ぶ子ならよいのですが、あなたはここがちょっと弱いですというようなことが還元できれば、本当にこのデジタルトランスフォーメーションの意向には沿うかなみたいなところは思うのですが。

山本教育長

全部が全部というわけではないですよ。もう本当にやはり合う子と、それからこうぶつかり合ったり、子ども同士もぶつかり合ってけんかしたり、仲良くなったり、あるいは涙流したり、感動したりする場面というのはやはり画面の中では共有量は非常に少ないと思いますので。大部委員が実際に芝生の上で子どもたちとはしゃぎながらやっているという、あのような交わりがあって初めて、じゃあ今回はオンラインで授業をしてみようかとなっても、子どもたちもどんどん手を挙げてくれると。やはり会うこと、直接触れ合うことで学んだことが次のステップを踏めるという、これは外さないようにしたいなと思います。何でもかんでもこれでいいというところがね。今使っている機器も、もうすぐ壊れます。というか時代の流れで、まだそんな機器を使っているのって4、5年経ったらなる。もうこれをまたガラッと変えるために、文部科学省は今年から予算をつけて、それぞれの変更に対応できるようにしていますけれど。また境港市にも財政負担が結構来ます。高校が保護者に機器を購入してくださいとお願いしていますので、これも（補助金を）つけていく方向におそらくこれから動いていくと思います。そして、今は重たい機器を、背中が、カバンがこんなになって持ち帰りをしているじゃないかというのが、おそらくもっと軽量でサイズの小さいものになって、キーボードは別になっていて接続して使用できるから、家用と学校用で持っておいて、みたいなのができたり、もっと言えば、眼鏡を掛けたら目の前に画面が映っているのかもしれない。その進歩は私たちが想像するものの何百倍もすごいところに行くでしょうから、ついていくのが精いっぱい、年配の先生は本当に苦しい、厳しいなあとと思いますけれど。

中田委員

何か今の話で行くと、言葉にこう、流行りのものに飛びついてという感じ、今、質問にしたってというところで。ICTとデジタルトランスフォーメーションは意味合いが違うわけじゃ

ないですか。それを何か一緒に、一足飛びにという感じの、何でもできるよという、昔のパソコンが出た時の魔法の箱みたいな、そんな風に使われてしまっていると、ちょっと変な風にとられたりとか、変な方向に行ったりというのがすごくするだろうし。ひとつやはり心配なのは、前から言われているように、やはり家庭学習、家庭教育の大切さというところで考えると、こういったデジタルというものについて、個々の保護者の方によって合う合わないということもあるでしょうし。学校ではこういうことができ、子どもたちはこう習ってわかっている。でも家ではそういったことを親と何も話さない、話をしても、お父さんもお母さんもわからないな、という風になってしまっても本末転倒なのかなという。何かそういった風な相反するところになってくるでしょうけれど、そういったバランスというのは大事なのかなという風には思います。

十河委員

少し意味が違いますよね、効果的に今言われるように使う場面と、対面でしっかり指導していただくような場面と、きちんとやっていかないと、すべてこれ用意したから全部使えみたいなことではないと思うんですよね。今、中田委員が言われたように、ICTとデジタルトランスフォーメーションが一緒になってしまっているという。効果的に使わないと意味がない、何でもそうだと思うのですが。

大部委員

何が効果的なのでしょうかね。

十河委員

例えば、ネット上でできるドリル等がありますよね、ああいうのを繰り返しできたりとか、個に合わせてそれぞれの問題が出たりとか、そういう場面等には、やはり効果的に使えるのではないかなと。その子の進度に合わせて学習ができるとか、そういったようなところがすごくいいかなと思うのですが。以前に授業を拝見した時も、無理やり使うというところも見受けられたりして、ちょっとそこもまた違うのではないかなと思うのですが、やはり効果的に、ここで使うと子どもたちが入りやすいとか、そういう部分で使っていないと、何でもかんでも置き換えてしまうというのはちょっと。漢字でも、繰り返し書いて覚えるということもあるでしょうし、紙の上で計算するというところもあるでしょうし、全部タブレットの中で書くというの

は少しやりづらいですね。そういうことを含めて、紙と文房具の使い方を要所要所で見極めていかないと、何でもかんでもというのはちょっと違うような気がします。

山本教育長

学校はそういうことをバランスよく、よいかどうかは別にして、使い分けながら、大切にするとすると、（ICTを）利用するところはどんどん利用してやろうねということは言っています。インフルエンザが流行して、先週もまた学級閉鎖が出ましたけれど、出席確認や、元気な人は勉強を進めていいよというような、先ほどのドリルのようなものを、持ち帰らせてやるというようなことは、だいぶ定着化してきました。そういう授業ができないときの学習補助というような使い方というのは一番今の時代にはあっている使い方だとは思っています。新しいことを習うということはなかなか、例えばAI先生みたいなものが出てきて教えてくれるというようなものはないので、自分で進んでいくのですが、出席確認で、「先生、今日私は元気ですよ」というようなやりとりが家と学校でできたりはしていますから、それはいいかなと思っています。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

みんなのトイレのお話が出てきているのですが、この、みんなのトイレの認識というのは、いわゆる多目的トイレというところ、多目的という言い方がどうかわかりませんが、バリアフリーという言い方が適切なのかもしれないですけど、その言葉の置き換わったのが、みんなのトイレという認識で大丈夫でしょうか。

角課長

みんなのトイレのとらえ方としては、多目的トイレとは全く別のものです。ひとつの個室で男性でも女性でも誰でも使えるようなトイレというようなとらえ方をしています。ジェンダーレストイレというのがあるのですが、そのとらえ方としては、トイレスペースのすべてが、男女関係なくどちらでも使えるトイレとなっています。

十河委員

オストメイト等の設備もされるということでしょうか。

角課長

みんなのトイレは多目的トイレとは別に作る予定にしています。多目的トイレにオストメイト等は設置することにしています。

十河委員

また別に、みんなのトイレというのは作られるということで。各小学校に一つずつ作っていくような形になりますか。

角課長

一つというわけではなく、学校ごとに違うのですが、希望に沿った形で。

山本教育長

多目的トイレというのは規格があって、車いすが入れます、スライドドアです、バーが下りてきます、オストメイトを導入しますというような。それらを全校に1個ずつは必ず作ろうと思っています。それと、みんなのトイレという発想で、ジェンダーを取り払ったような形で、色々な用途は考えられると思うのですが、そのトイレを設置することで人権の意識を子どもたちの中からも既に伝えていきたいという目的もあって。それは今小学校の校長先生方をお願いして、学校現場とPTAの声を聞いて、どういうトイレが一番いいかというのを考えてもらって作っています。なので、例えば小便器についても、今後もう小便器は一切要らないという小学校の校長さんもあるし、やはりいくつかは残してくれというところもあって、じゃあ家に小便器があるかといったら、そういえば無い家がほとんどだなとか考えていただいて。トイレからジェンダーやマイノリティを考えてもらうという仕組みができていけばと。答弁の中にも入れたのですが、大事なキーワードは、作るのは大人、使うのは子どもたちで、学校や子どもたちに命を吹き込んでもらうということです。作ってやったからこれでちゃんと使えとか、そんな発想は全くなくて、そこに命を吹き込んで、なぜ大人がこのようなメッセージを送ったのか、そして自分たちはどういう風にここを使っていくのかを考えてほしい。トラブルは絶対に起こってきます。みんなのトイレを使った人を差別するような言動が出てきたり、男女別のトイレじゃなくみんなのトイレを使えと言われて悩む子どもが出てきたり。これもいい勉強になると私は思っていて、学校の先生方等がこういった言動を見逃さずに。こういうトイレはこういう時に使おうよとルールを決めるのは子どもたちであればいいと思っていますので。もう全部

それでいくぞというようには思っています。急激な変化には戸惑うことになると思いますが、だんだんと私は青色と赤色のマークがナンセンスに思えてくるようになってきているので、意識を変えていくということは大事だなという風には思っています。毎日トイレは使いますから、そのメッセージ性は非常にあるだろうなと思っていて、そうしようと。

十河委員

人権尊重という形で作られて、子どもたちに名称や内装、ルール等を決めてもらうという、答弁の資料に書かれているような方法で命を吹き込むというような形になるのですね。

山本教育長

はい。後世になって、例えば、30年前から境港市の小学校はそういうトイレになっていたよという話になって、他の地域の人からいいねといわれる。そうなれば、お前みたいなのは少数派だからどこかあっちの方でやっておけとか言われることはなくなるでしょうし。

十河委員

多様性を認めていくようになるのですね。

山本教育長

そうですね。学校が一番そういうことができるだろうと思っているものですから。乗り越えないといけない、あるいはこれから子どもたちや学校に課せられた、試練というか、色々なトラブルは起こってくると思いますけれど、やはり命を吹き込んでいくことで変わっていけるかとは思っているということです。

十河委員

これは小学校だけでしょうか。

山本教育長

小学校だけです。

十河委員

これはトイレの改修時に一緒に設置していくということでしょうか。トイレのドライ化等に合わせて工事して、小学校全校で順次していくという。

山本教育長

はい。順次です。

角課長

来年度再来年度の2年間で。

山本教育長

そうすると、もしかしたら小学校が合併するかもしれませんが、そのようなときまでに、10年、15年後耐えられる状態は作っておかないといけないというところもあって。それによって、ドライ化になっていないし、衝立一枚で音が聞こえるという状況に今の小学校はあたりしたものですから、もう今のうちにそういうこと、トイレからでも改修していかないとけないねということ。

十河委員

トイレの問題というのは、やはり子どもたちも関心がすごく強いみたいです。先日、外江小学校と渡小学校の6年生が初めて第三中学校に行って、色々、大人と子どもで話をしたのですが、「小学校はトイレが臭いんだよね」と、ある子どもの発言があって、「三中はきれいだよ、行ってごらん」と言ったら、うわーっと、みんなやはり興味があったみたいで見に行くと、きれいだった、と。やはり子どもたちの興味、関心がすごく強いところかなと感じました。改修されてよくなるので、よかったなと思います。ありがとうございます。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか（意見等なし）。それでは協議案件は以上となります。ここからの進行は事務局でお願いします。

【4. 報告事項】

事務局

それでは、報告事項・行事予定について、教育総務課、生涯学習課からお願いします。

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

※松原局長より連合図工作品展、第2回就学支援委員会、地域学校協働推進フォーラム in 境港、市人権ふれあいフェスティバル、第2学期終業式、ICT活用研修会、まちづくり将来世代育成事業、第3学期始業式、市教委校長ヒアリング、県教委校長ヒアリング、第1回教育長ヒアリング等について説明

松本課長より総合教育会議、境港の発掘展、地域学校協働推進フォーラム、移動図書館車お披露目会、冬季街頭補導、二十歳の集い、読書まつり等、竜ヶ山球場改修箇所、文化ホール改修事業について説明

《図書館 利用状況等報告》

※資料配布

事務局 ただいまの行事報告・行事予定について質問等ありますでしょうか。

十河委員 移動図書館車の導入の件について、寄付をいただいたとお聞きしているのですが、詳しいお話をお願いできますか。

松本課長 県外におられる方なのですが、その方のお母様が境港市にゆかりのある方で、寄付のお申し出が総合政策課の方にもともとありまして、総合政策課が何に活用させていただくのがいいのかなということで色々悩んで、市民図書館に話を持っていきまして。はじめは本を購入して寄贈という、総合政策課からの提案だったのですが、本はすぐ賞味期限切れになってしまって、頂いたものが結局なかなか有効に活用されないということも実際に起こるので。それよりも、移動図書館車が念願だったので、それを頂けないでしょうかということをご寄付者の方にお話ししましたところ、ご快諾いただいたと。ざっくり言うとそのような流れです。

山本教育長 ご寄付者の方のお名前は言っただけでなかったでしょうか。

松本課長 内木さんという方です。移動図書館車にも名前が記載されています。

山本教育長 そうでしたね。

十河委員 名前も入っていますよね、移動図書館車に。

山本教育長 岐阜にお住まいなのですが、式には出席しないけれどよいように使ってもらえたらと寄付をいただきまして。移動図書館車には読書通帳の絵と同じものを描いて、その部分がカパッと開くようになるという、すごく楽し気な。まだ活用はしていませんか。

松本課長 さっそく出動しました。出動というか出かけて行っています。

山本教育長 図書館長さんが運転して。図書がお届けされるという、図書館に来ないと利用できないという方法ではなくて、保育園等に

行って、本を借りるきっかけや、足腰が悪くなって動けませんという人にも届けられるようになって。内木さんも随分喜んでくださっているようで。母親の出身地に何かしたいということで、ありがたいかぎりです。

渡邊委員 総額はどれくらいかかっているのですか。

山本教育長 移動図書館車が700万円です。それを超えた額を頂いております。

松本課長 残りの金額は、本を移動図書館車用に購入しまして、今後活用させていただくことになっています。

山本教育長 そのアイデアの中には、同じ本をたくさん、30冊ほど購入して、読み聞かせの時に子どもたちがみんな自分で手に取って見られてというように使えませんか。絵が変わっていくのを自分でめぐりながら楽しんでというのは、何か思っただけでもほのぼのとした光景だなと。すごくいい発想をしてくださって。

十河委員 ご寄付いただいて、せっかく素晴らしい設備ができたので、上手に活用していけるといいですね。

山本教育長 本当に人気になったときの運転手を考えないといけないですね。館長さんばかりに行ってもらうわけにもいけないので、何かいい方法を。まあ利用状況を見ながらですね。

松本課長 そうですね。まずは図書館の方でその辺りを相談してみます。

山本教育長 市でありながら、無いところに届けに行くという、何かそういうちょうど中間的なというか、それこそハイブリットな方式というのが境港市にはぴったりくると思います。集合的にここに来なさいと、都会型でモダンで、入ってくるのを限定するとかいうわけではなくて、こちらから出かけますよみたいな感じであるといいなあと。

十河委員 今も公民館に市民図書館の蔵書が置いてあって、館長が定期的に交換する等、色々されていると思うのですが、どんどん本

が身近になっていくのは素晴らしいですね。

山本教育長

先程も市民図書館を覗いてきましたけれど、やはり利用者の年齢層が本当に広いです。休みに入ったから、高校生が勉強しているのもあれば、小学生が寝転んで読めるスペースでごろごろしているのや、お年寄りの人は読書の合間に居眠りをしていたりして。本当に楽しんでいただける憩いの場になっています。私も引退した際には、またいるじゃないかと言われるくらい行こうと思います。

事務局

そのほかいかがでしょうか。

中田委員

文化ホール改修事業について、予算委員会の結果、付帯決議となったと新聞に出ていましたが、代替案等が出るということでしょうか。代替ではないかもしれないですが。

松本課長

付帯決議の中で、調査研究の提言を出されるということでしたので、その提言の内容というのが議会としての一つのまとまった見解ということになると考えております。その提言内容を確認させていただいて、それをしっかり守って、こちらも受け止めさせていただいてということになるかなと思います。それがいつ頃出てくるのかということもまだわからないので。

中田委員

それは外観に関して、回廊の撤去とかその辺りのところが中心でしょうか。

松本課長

それは実際わからないです。議会の質問の中では、回廊の撤去という部分のご意見として出たのですが、最終的に提言としてまとめられるものの中にどういう内容で盛り込まれるのかはちょっとわからないです。

中田委員

実際、回廊が無くなってしまったら見栄えの問題が出てくる等で、そんな話も出たのかなと。

松本課長

内輪で事前に話をした中では、建築の方の意見としては、回廊を撤去することで、建物正面のガラス面がすっきり見えるようになるので、見た目は逆におしゃれな、いい感じになるので

はないかなというような意見もあつたりはするのですが。それはそれぞれの判断による部分もあるので、何とも言えないです。広場としての活用をもっとしやすくしたいということがひとつの狙いなので、そういう意味では、撤去したいということとはもとの発想にはなっているのですが、今の時点では色々のご意見を聞きながらまた考えるということになるかなと思っています。

中田委員

じゃあ実際4月からの施工となっていました、そういった提言が出てこない、ということになってしまうのでしょうか。

松本課長

そうですね。ですので、提言の時期によっては、工期等も大きく変わってくるだろうとは思っています。今それもちよつと見通しが立たない状態にはなっています。

事務局

そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。
次回日程確認。

【5. 閉会】

山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。